

地方だより

日立市天気相談所

日立鉱山や日立製作所で知られる日立市に天気相談所が生まれてから、今年でちょうど10年になる。全国でも初めての試みとして市営による天気相談所が発足したのは、昭和27年6月1日で、その翌年には気象業務法による予報業務の許可をうけた。

茨城県北部の24料にわたる海岸線を含む市内を対象に天気予報を発表して、消防本部や会社工場などの大事業所と農漁業の団体に通知したり、また各種の気象注意報、警報の伝達によって防災活動につとめるなどして今日に至った。

しかし日立にはこの天気相談所が誕生するずっと前から気象観測が始められていた。日立鉱山において明治43年より会社自体で気象観測を行ない、天気予報を利用して、鋼の製錬により生ずる煙が山林や農作物に及ぼす害を防ぐとともに、作業の調節によって増産にも大きな効果をあげていたことである。

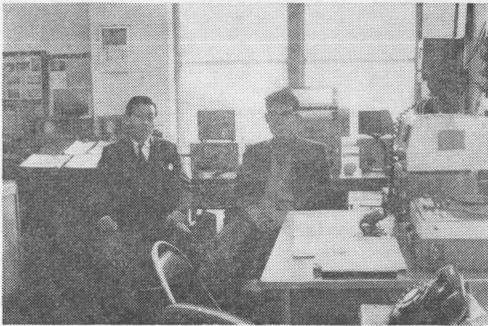


写真-1

これが神峰山観測所（海拔594米）で、水戸地方気象台の区内観測も担当してきた。

戦後になって、煙の中の亜硫酸ガスから硫酸製造設備を完成したため、煙害は解消し他に7カ所もあった観測所とともに廃止される破目となった。しかし、長年この地方の気候観測に役立ってきた貴重な施設の存置を希望した地元水戸気象台は、さらに新しい見地から役立てようと努力したが、鉱山や市当局の深い理解によって、気象サービスを主体とする天気相談所として生れ変わったのである。

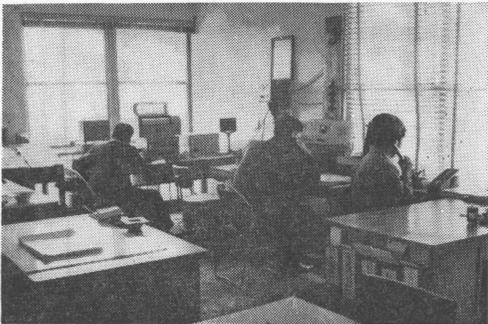


写真-2

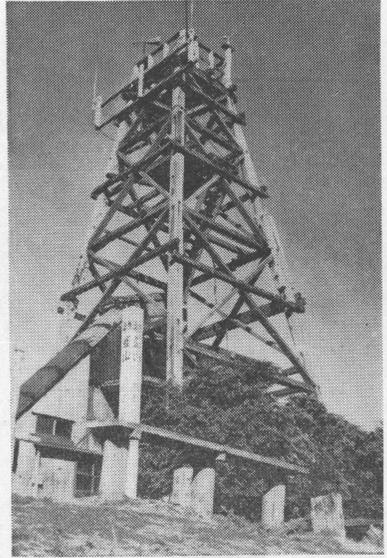


写真-3

現在は事務所を市役所内におき、神峰山と2カ所で地上観測をつけ、水戸気象台に通報したり、区内の報告を行ったりしている。整理された資料は市自身としても一般の街づくりをはじめ、道路、港湾、工場、その他用廃水等の建設資料や、工場の技術試験、改善資料などにも数多く利用されている。

最近ではFAX装置により資料を入手して予報を発表しており、漁船や港湾に対する気象サービスには、漁業無線局内に出先の通報所を設け、超短波無線電話によって気象情報の連絡をはかるなど施設の改善と能率化につとめている。

今まで水戸気象台間の連絡には専用電信線を用いたが、近くこれを無線電話に切換えて予報連絡や防災活動に一層効果をあげるよう計画している。

これは、日立商港の実現などによるもので、5年まえは100吨の漁船も入港できなかつたところへ、漁港を含めて5000吨の商船が横付けできる港が整備されたため、将来は1万屯も船舶の入港を目標に建設をつづけているが、太平洋の荒波に面した人造港であってみれば気象の影きょうも大きく、これを台風などの災害から守るための手始めの措置に外ならない。

日立市は、現在人口17万を超え、わが国第1の生産を誇る日立製作所の5大工場を始め、日立電線、日立鉱山、日立セメント等の大事業所と、傘下には数百におよぶ下請工場が密集する県内第一の産業都市である。さらに将来は日立港の完成や、隣接する東海村の原子力産業の開発等により急速な発展が予想されている。これら産業活動の進展にともなって気象利用が増大しているのはいうまでもない。

今後はさらに台風など気象災害の予防対策を強力する一方、新しい都市づくりで協力して施設の増強と能率化をはかりながら、産業都市としてのサービス強化に努めようとしている。

なお当所は市の機構では産業部に属し、5名の全職員のうち2名は前記観測所や通報所に配置されている。年間の予算は市予算の0.2%程度である。